

日本橋散歩 美術散歩

— ミュージアム紹介⑥ —

見て、聞いて、触れて くすりをもちと身近に Daiichi Sankyo くすりミュージアム

日本橋は、薬の街でもあることをご存知だろうか？

日本橋には、大手製薬企業の本社や外資系の製薬企業などが多数存在する。実は江戸時代、日本橋本町一帯は薬やその原料を取り扱う薬種問屋が集積する街だった。そんな日本橋本町に、日本でも珍しい、薬に関する博物館「くすりミュージアム」がある。

施設を運営するのは、第一三株式会社。江戸期の薬種問屋を起源とするのではなく、いずれも100年近い歴史を持つ創業型企業の第一製薬と三共が2005（平成17）年に経営統合し生まれた大手製薬企業である。2011（平成23）年には日本橋本町3丁目に新しい本社ビルが完成し、その翌年、くすりミュージアムが開館した。いわゆる企業博物館の範疇に入るかもしれない

が、ここで紹介されているのは一つの企業の情報ではなく、薬に関する普遍的で広範囲な事柄なのだ。そこには、「くすりについて楽しみながら学び、くすりの大切さを知って欲しい」「創業に関する企業の活動を知って欲しい」という想いがある。

専門的で、難しそうな薬の世界。ただ、人が健康で豊かな生活を送るために、今や欠かせないものでもある。そんな薬について楽しみながら知ってもらうために、くすりミュージアムでは、体験型の展示でわかりやすく紹介している。

2階の受付でもらえるのが、専用のメダル。内部にはICチップが埋め込まれており、展示室の各コーナーにあるコントローラーにセットすると、映像が流れ出したり、ゲームで遊んだりすることができる。来館者は見たり、聞いたり、触れたりといった体験を通じ

て、「くすりからだ」「くすりをつくる」「くすりのはたらき」「くすりの歩み」などが理解できるようにしているのだ。展示を観た人から「もっと薬のことが知りたくなりまし」という声が聞かれるなど好評。同館によると、オープン当初は1万人だった来館者数も、2019年度には2万5千人を突破しそうな勢いだという。

オフィス街に立地するだけに、来館者の内訳は社会人が約40%と最も多く、以下、小学生以下の子ども、主婦、中学生と続く。幅広い層が薬について知りがっていると言えるかもしれない。夏休みには、自由研究の題材を求めてやってくる子どもたちも多いようだ。そんな彼らのために、3月中旬から4月中旬、7月中旬から9月中旬はカードゲームなどの子ども向けのイベントも開催される。ここでしか手に入らないグッズも、くすりミュージアムでは販売している。一番人気は胃袋の中身が見える!?「胃袋クリアファイル」だ。

日本橋を訪れた時には、このユニークで、ためになる施設に足を運んで欲しい。

ミュージアム2Fがメインの展示フロア

デジタル年表「くすりの歩み」が映し出された3画面大型スクリーンのシアターでは、「くすりの未来」と題した迫力ある映像を観ることもできる



薬がどのような仕組みで人体に作用するかを、対戦型ゲームで楽しみながら知ることができる「くすりのはたらき」コーナー



口から入った薬が、どのようにして体の中を巡っていくかを、巨大な人体模型を使って説明してくれる「くすりのうごき」コーナー

◆最新情報は、第一三共公式Facebookでも発信中 <https://www.facebook.com/daiichisankyoJP/>

+information

Daiichi Sankyo くすりミュージアム

住所：東京都中央区日本橋本町3-5-1

TEL：03-6225-1133

URL：<https://kusuri-museum.com>

時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館）、年末年始
入館料：無料

交通：東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅A10番出口より徒歩2分。JR総武線快速「新日本橋」駅5番出口より徒歩1分。

